

絵の具の楽しみ無限大！



リズムカルにポンポン♪

道具の準備やたくさん
の色を準備することで
遊びが広がっています。

身体全体で絵の具を楽
しめる工夫がよいです
ね。

身体いっぱい絵の具
で遊んで、目一杯楽し
んでほしい。

スタンプを押すことや絵
の具で描くことに達成感
をもっているみたい。

絵の具の感触を身体全
体で味わって楽しんで
ほしい。

絵の具の感触を楽しん
でいる様子が見られま
すね。

■ 写真を選んだ理由やこの場面のエピソード ■

赤、黄、緑の3色の絵の具と「たんぽ」と紙を使って、子どもたちがやりたい、やってみたいことを経験できるようにしたところ、ポンポン押すことに夢中になっている姿がありました。絵の具の感触やいろいろなところに「たんぽ」を押す子どもたち。絵の具の感触が心地よいのか、手足全部で絵の具に触ったり、身体に塗ってみたりする子どももいました。汚れることも気にせず、好奇心のままに遊びに夢中になっている姿を捉えたこの一枚。満足しているような表情から、達成感をもっているように感じます。

■ 保育のポイント ■

- 子どもが夢中になれる環境の構成の工夫
- 保育者も一緒に遊びこみながら、子どものやりたいを引き出す工夫

その瞳の先は



自然のよさや風景の美しさをじっくり感じてほしい。

好奇心を寄せたものにじっくりと向き合ってほしい。

子どもが何かをじっと見つめたときは、そっと見守っています。

外でゆっくり過ごしていることで、子どもが外の世界を味わっています。

ふと見上げた顔が、何かを訴えているようにみえました。

絵馬を見ているだけではなく、自然の音をじっと聞いているようです。

■ 写真を選んだ理由やこの場面のエピソード ■

子どもが見上げているものは何だろう、と感じる瞬間の一枚。

ここは、ある神社の境内で、たくさんの絵馬がぶら下がっていました。子どもは、絵馬が風に揺れているのをじっと見ているようでもあり、音を楽しんでいるようでもあります。また、葉音や木の音を感じているようにも思いました。

まるでこの世界を独り占めして味わっているかのような表情に見えて、私自身がこの子の表情に引き込まれました。満3歳児未満のこの時期だからこそ、子どもの歩調に合わせて、ゆっくりした時間を大切にしたいと思います。

■ 保育のポイント ■

- 子どものペースに合わせた保育者の見守りと支援
- 子どもの表情から、内面に生まれてきたものを大切にする時間の工夫

指あみを教えてー！

A君の指網が上手なことをBちゃんがよく知っていたな。

Bちゃんが真剣に教わっている姿から、A君を尊敬しているのが伝わる

次はここを持ってこっちにあげるんだよ

次どうするか教えて

A君が張り切ってBちゃんに教えていて、嬉しそう

そばでじっと見ているC君はどんなことを考えているのかな？

A君の教え方が丁寧で優しいなー

やりたいと思っているのかな？

盛り上がっている時に、チャイムが鳴り、中断してしまうのはもったいないのかな。どうしたら一番良い環境が保たれるのか考えたい●●先生

友だちに教える姿を初めて見たので、これをきっかけに、友だちに伝える楽しさを知ってもらいたい

こんな事できてすごいなーと思っているのかな？

自ら考え、自発的に行動できる環境を考えて行きたい

C君の気持ちを聞きたかったなー ●●先生

皆なら、C君になんて声掛けするか、それともしないのかを聞きたい ●●先生

■ 写真を選んだ理由やこの場面のエピソード ■

年長で、指あみが流行り、数日たったころ、年中のA君がその中にいた。もともと手先が器用だったのですぐに覚え、そのうち一人で真剣に取り組んでいた。

ある日、年中のBちゃんがA君に指あみを教えてもらおうと、自ら歩み寄り、聞きにいった姿を見た。その時のA君の教え方が丁寧で、優しくかったことに驚いた。普段少し乱暴なところがあり、誤解されることもあったA君だったので、嬉しかった。

A君に人に伝える楽しさを知ってもらいたいと思った。また、Bちゃんも、保育者に聞くのではなく、指あみの上手なA君に聞きに行く姿にも感動した。また、C君は、友だちの遊びに興味を持ち、ずっと眺めていて、見る力や、色々考える力もついたのでかなと思った。

今回保育者は、一切声をかけず見守るだけにしたが、それぞれの子どもたちの変化が見られたことを感じたのでこの写真を選びました。

□ 保育のポイント □

- 子どもの「やりたい」環境を見守り、その子の何が育っているかを考える
- 子ども自ら自発的に動けるような環境を整える
- 子どもたちが今何を考え、何を感じているのか、心の動きを感じ取る

自分が今できること

みんながどのように関わっているかじっと見ている

関わり方を見て学んでいるのかな？

鼻水ふくね

自分がしてもらってきたことを、してあげているのかな

見てたよ、大丈夫？
痛かったね
先生あのね…

困ったときには、みんなで助け合ってほしい。伝えてもいいという経験。

真剣な表情や視線を合わせて関わる姿に心から心配し、行動しているのが伝わる。

お友だちのことをよく見ている。その子の個性を理解し関わっている。

お友だちのことを理解し、思いやりをもって過ごしてほしい。

気づく力や周りを見る力がある。一人ひとりが自分は どうしたらいいんだろうと 考えて行動している ●●先生

言葉が少なくても、それを周りが理解し助けてくれる。子ども同士のやりとりって凄いですね ●●幼稚園

■ 写真を選んだ理由やこの場面のエピソード ■

A君(左側・年長)は障害をかかえており、自分の思いを詳しく言葉で伝えることができない。この時は、年少のお友だちに押されてしまい泣いている。(※年少は積み木の家がまだ完成しておらず入らないでほしかった為、押ししてしまった)その様子を見ていたB君(右側・年中)は、すぐに駆け寄り「大丈夫？痛かったよね」とA君の気持ちに寄り添い声をかけている。職員にも何が起こったのかを説明してくれる。B君と遊んでいたCちゃん(真ん中・年中)泣き止まないA君をみて、周りを見渡し走っていく。どうするのか見ていると、ティッシュを持ってきてくれた。「鼻水でてるからふくね？」と優しく声をかけ拭いてあげている。D君(上側・年中)は、最初から最後までじっくりとそのやりとりを見ていた。関わり方を見て学んでいくのだろう。見ているのにも理由があるのを感じる。A君が元気になると、B君、Cちゃん、D君は笑顔で遊びに戻っていった。異年齢・インクルーシブ保育の中で自分と相手の違いを認め合いありのままを受け止める姿、年齢関係なく助け合う姿、今自分ができるとは何かを考え主体的に動く姿が見られたのでこの写真を選んだ。

■ 保育のポイント ■

- 多様な関わりがある異年齢活動(自由遊び)
- 子ども同士のやりとりを見守る

次は、僕が助けるよ！

発言はないが
そっと涙をふく

自分がしてもらって
嬉しかったことをし
てあげたい！

優しいね、
ありがとう

心が動く瞬間はどんな
ときかな？

発言だけでなく、行動で思
いを伝えることができる。

顔を覗く。大丈夫かな？
と心配してくれている

自分でティッシュを取って助
ける。主体的。何をするべ
き？と考えて行動している

思いやり、温かい気持ち
が伝わってくる。優しさ
の連鎖 ●●先生

子どもは経験すると、同じ
ことをしてあげようとしま
すよね ●●幼稚園

■ 写真を選んだ理由やこの場面のエピソード ■

図書室でA君(左側・年長)と絵本を読んでいると、鼻水が。職員がティッシュを渡し、拭いてスッキリ！と思った数十秒後、今度は自分でティッシュを取りホールへ走っていった。ついた先には、先生に抱っこされているB君(右側・満三歳児)が泣いていた。A君はそっとティッシュで涙を拭いてあげ、誇らしげな表情。「優しいね、ありがとう」と声をかけると手をパタパタさせお友だちを元気づけられた！と喜んでいた。実はこのA君、前回涙や鼻水を拭いてもらっていた側。その時の嬉しさやお友だちの優しさを思い出し、今度は自分が助けてあげたいと思うようになったのかな。心が満たされる体験や安心する環境がこのような行動に繋がっているのだと感じた為、この写真を選んだ。

■ 保育のポイント ■

- 子どもの行動に興味を持つ
- 気持ちを汲み取り、見守る。本児の行動を認める声掛け